

質疑応答 ①

植田：ありがとうございました。お二人のご報告をふまえて、今の時点で少し確認をしておきたいことなどがあれば、出していただければと思います。いかがでしょうか。

森（元）：なんか全然コメントとかじゃなくて申し訳ないのですが、さっきの岩舘さんの *government at distance* とか、西川さんの *action at distance* について。私の中のわずかな記憶力のせいで、Foucault 先生の記憶が、あまりないのですが、この語自体は、物理学の比喻なんですよ。だから、環境というよりも、場として理解するとすんなりわかったりするのかな、と思いました。あと、指示体・境位とかも、*medium*、媒介とかで、*action at distance* も、物理学で遠隔作用。そう呼んだ方が、なんかもっと物理的にその場所を、因果的法則関係でもってそれを見ている、みたいなふうに分かるのかなと。

植田：ありがとうございます。訳語でだいぶ印象が変わってきますね・・・

あと、これを本当にやり始めたら後半の総括討論が始まってしまうので、少し頭出しだけお願いできればと思うんですが、西川さんが、モノに主体性を見るにはいろいろと問題があって、簡単に認めるのもどうかってというようなことを最後におっしゃっていた一方で、岩舘さんの報告の最後の方のニュアンスだと、やっぱり人がコントロールできないところにモノがあるというお話で、モノの主体性をどちらかというとき強くとっている、そういう印象があります。実は僕の報告でも、そこは煮え切らないままで、この数年間ぐずぐずと考えているところがありますが、今日のテーマを考えるうえで、モノの主体性をどれくらい受け止めたり引き受けるのかということは、結構大きな論点であろうと思います。後半の議論でも深めていきたいと思うんですけど、現時点で、論点として出していただければと思います。いかがでしょうか。

西川：じゃあ、ちょっと手短かにですが、これ、いまだに私自身もあまり深くは考えられていないところですけども、さっき、最後の方にちょっと言った、モノが力を持つて、モノのアクター性があるって言うってしまうのもちょっとどうなんだろうかというのがその辺でして、*Actor Network Theory* にしても、その最近の議論にしても、モノが力を持つて言うってしまったときに、逆にそこから見えてくるのは、モノが主体性を持たない方っていうか。そっちの方が、なんか私は気になる部分が正直出てきて、統治性とか *Actor Network Theory* を使ってしまうと、モノに力があるとか、モノに権力性があると言うってしまう方に入れてしまうことにはなと思うので、そうじゃない方。だから、特に歴史研究をやっていると思うのは、かつて使われたけど今はもう使われていないものとかがあって、実は、そこにこそモノ性が備わるっていうか、生々しいモノ性っていうのが出てくるのかなと。今回の災害の例でいくと、今まで使われていたものが急に機能を停止してしまったときに、今まで見えなかったものに急にモノ性が現れるっていうか、そういうところが実は重要じゃないかなと思っていて、具体的にどういうものかという、たとえば今思いついた例でいうと、廃墟とか空き家とか、ローカル鉄道の廃線とか。私がやっているところでいくとサナトリウムなんですけど、昔使われていた病院とかなん

ですけど、逆に今は打ち捨てられたもののなかにこそモノ性が宿るというか、重要な部分があるんじゃないのかなというところも見えてきていて、それをたとえば、統治性とか Actor Network Theory で分析してしまうと、その辺がもしかして見えなくなってくるのかなというところは、ちょっと思いますね。

植田：ありがとうございます。岩館さんはいかがですか。

岩館：僕も、最初は、モノのエージェンシーっていうのは面白いなと思っていて、それと見ていこうと思っていました。ただ、介入や権力といった議論を重ねたうえでモノ性に着目すると、モノっていうのには、人間によっては統治しきれない部分、意識によっては捉えきれない部分、その部分がやっぱりあるのではないかなと思うようになりました。水道水とかにしてもそうだし、うまく言えないんですけど、人間の意識の外部みたいなものが常にあり続けていて、それ自体が、人間の意識とか意図とかを超えたところで何らかの働きを発するとき、それを人間が勝手にエージェンシーと呼ぶのかなというふうに思うと、その点はやっぱり面白いかなと思っています。そして、フィールドワークの経験を思い返しても、モノとの出会いというか、モノの動きや働きはすごく興味深い対象だと思っています。なので、インフラみたいなものを見るときにも、その意味でのモノのエージェンシーに着目したいかなと思っています。なんか、人間の意図だったり、プログラムだとかっていうところと違う、場合によっては思いもよらない動きや働きをしてしまうわけですね。そこがモノ性の面白さだなと思うので、その意味におけるエージェンシーは、僕はちょっと積極的に注目していきたいと思っています。

植田：ありがとうございます。実はプログラムに変更があったんですが、時間が今ちょうどぴったりになっています。ご来場の方々には最初に申し上げるべきだったんですけども、登壇予定だった須永咲さんのご報告が、ご都合で今日はキャンセルということになりました。もうひとつ、お配りしたタイムテーブルに誤植がありまして、時間が明らかにずれてしまっていたんですけども、今、結果的にタイムテーブルどおりの時間になっています。ここでいったん休憩にさせていただいて、2時45分に再開したいと思います。